

実践報告1

鹿嶋市の取組

専門人材



【経歴】

- ・英会話学校に15年半勤務
- ・10年間ティーチングスタッフとして勤務
- ・1歳～大人までの英会話クラス、資格試験対策(英検・TOEIC)
- ・その後、本社の教務課に異動
- ・トレーナーとして新任教師の育成にあたる。

<本取組にあたって>

- 臨時免許状(中学校英語科)を取得
- 配信校の常勤講師として勤務

石塚 有美 先生

授業者、遠隔システムの状況

鹿嶋市立鹿島中学校(配信校)

鹿嶋市立平井中学校(受信校)

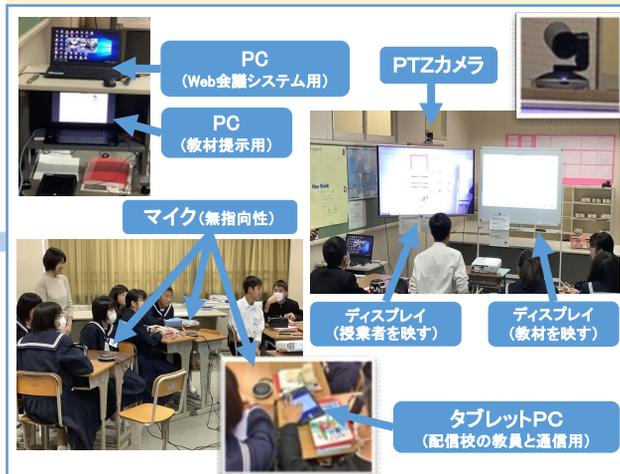
石塚 有美 先生
遅澤 美奈 先生
(英語科)



授業者

額賀 翔太 先生
(保健体育科)

遠隔教育特例校制度
の活用



授業の計画

単元 Program 7 (Sunshine English Course 2)

時	学習内容	ねらい	形態	
			対面	遠隔
1	本単元の文法事項について理解し、環境問題について自分の考えをもつ。	○ 単元終末の言語活動への見通しをもつとともに、環境問題の大切さに気付く。		○
2				
3	環境問題に関連する単語や表現を知る。	○ 環境問題に関する英語表現を聞いて理解し、グループの発表に活用する。		○
4				
5	環境問題についてその原因等について話したり書いたりする。	○ 単元終末の発表に向け、環境問題の原因 について自分の考えをもち、それを英語で適切に伝えることができるよう発表の内容、構成を考える。		○
6				
7	環境問題が自分たちの生活に及ぼす様々な影響や解決策について話したり書いたりする。	○ 単元終末の発表に向け、環境問題を身近な問題と捉え、その解決に向けた自分の考えをもち、それを英語で適切に伝えることができるよう発表の内容、構成を考える。		○
8				
9	グループ毎に環境問題について発表する。発表後、生徒間、生徒と教師で英語によるやり取りを行う。	○ 環境問題について発表し、他の生徒や教師とのやり取りを通して、環境問題についての自分の考えを広げたり、深めたりする。		○
10				

遠隔授業後の児童生徒の声



実際に近くにいる、一緒に授業をしているように感じました。



一つ一つのことを分かるまで丁寧に教えてくださったので、英語を前よりも好きになることができました。



自分の意見を発言する機会が多くなったり、分からないところも聞けたりして、とても楽しかったです。



遠隔授業では、積極的に発言することができました。



アンケートの結果

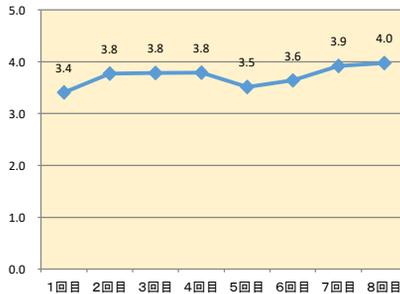
生徒

5:とても思う 4:どちらかといえばそう思う 3:どちらともいえない 2:どちらかといえばそう思わない 1:そう思わない

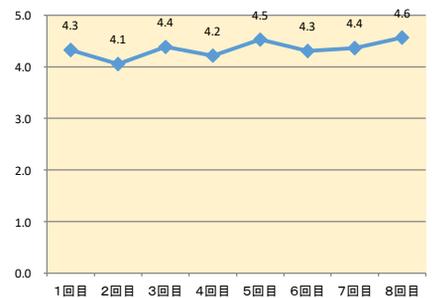
先生との会話はスムーズでしたか



同じ教室にいるような一体感を感じましたか



英語を使って自分の考えや意見を伝えることができましたか



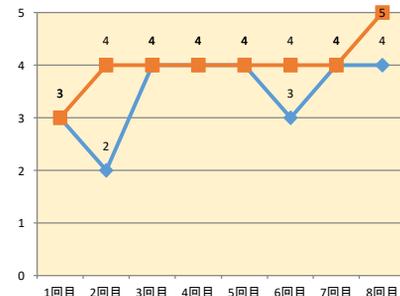
授業者

◆ 配信側 ■ 受信側

授業前の機器の準備は簡単だったか



授業中の機器の操作は簡単だったか



生徒一人一人の学習状況を把握できたか



成果と課題

成果

- 遠隔授業を通じて、生徒たちが自ら積極的に質問するようになり自律した学習者に育っていった。
- 英語による発話量が増え、英語でコミュニケーションを取ることに喜びを感じられた生徒が増えた。
- 全県で実施した英検IBAの結果から、遠隔授業を受けたアドバンスコースの生徒40名のうち、19名がCEFR A1レベル(英検3級程度)の基準に達した。

課題

- ✓ 配信側の教員が、生徒一人一人の学習状況を正確に把握することについて課題がある。
- ✓ 生徒一人一人の習熟の程度に応じて指導することに課題がある。
- 配信側の教員と受信側の教員との連携を強化することで改善が図られるのではないだろうか。